「現場力」を身につける。
教室からフィールドへ――

東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

2020 大学院案内

地に足のついた
解決策へのこだわり

東北大学
公共政策大学院院長
阿南 友亮

時代の推移とともに変わりゆく国際・国内社会の問題・課題をどのように解決していくべきなのか。公共政策大学院の最も重要な特徴は、問題・課題の中身を検証することに留まらず、それらに対する解決策を提示することに研究と教育の主眼を置いている点にあります。

東北大学公共政策大学院は、数ある公共政策大学院のなかでも特に「現場力」を磨くことに強いこだわりを持っている点を特徴としております。「現場力」とは、問題・課題が発生している社会の現場と解決策を検討している組織の現場に適応しながら個性を発揮するために必要となる知識、視座、スキル、経験を意味します。

本大学院では、2011年の東日本大震災以降、東北地域の様々な現場、すなわち防災・復興、少子高齢化対策、持続可能なコミュニティー作り、再生可能エネルギーの挑戦、農業の競争力向上といった現場に活動の重点を置いてきました。また、海外の現場にも赴き、広報外交や危機管理などについても検討を重ねてきました。問題・課題が発生している現場に身を置きながら、最善の解決策を探っていく。このような姿勢を重視する本大学院では、在学生が現場と非常に近い距離で2年間研鑽を積みます。

本大学院のカリキュラムの核となる公共政策ワークショップは、政策立案のプロである現役の国家公務員（実務家教員）及び政策を科学的に分析する研究者（研究者教員）による共同指導のもとでおこなう数々の現地調査をつうじて「現場力」を身に付けつつ、解決策の編み出し方を実践的に学ぶ場となっております。在学生は、中央省庁、自治体、NGO、そして企業がどのようなアプローチで問題解決に取り組んでいるのかをそれぞれの現場で調査・体験しつつ、自分たちが将来それらの組織のなかでどのような形で貢献できるのかについて具体的なイメージを育んでいきます。

毎年本大学院の門を叩く新入生の諸君は、４つのワークショップに分かれ、最初の1年間を共同作業のなかで過ごします。それぞれのワークショップ内のチームワーク並びに中間・最終報告会における他のワークショップとの緊迫した質疑応答の応酬は、本大学院の校風である学生間の強い絆を生みます。そうした絆は、卒業後もお互いを支え合うOB・OGのネットワークの基盤となっております。

強い絆と「現場力」を誇る東北大学公共政策大学院にまた新たなメンバーをお迎えすることを楽しみにしております。

東北大学公共政策大学院
SCHOOL OF PUBLIC POLICY, TOHOKU UNIVERSITY

「公共」のプロフェッショナルをめざして

3つの特長

特長1 実践的なワークショップ

東北大学公共政策大学院の中核をなす「公共政策ワークショップ」では、現場を幅広く体験・観察し、現場の声を踏まえて、具体的な政策提言をつくりあげていきます。

特長2 高度で多彩なカリキュラム

法学、政治学系の科目にとどまらず、経済学、さまざまな政策分野に関する演習など、高度で多彩なカリキュラムを提供しています。

特長3 少人数制によるキャリア形成支援

研究者教員、実務家教員が受け持ちの学生に対して、学習、進路など、きめ細かく相談・指導に当たります。

2年間で修了

標準的な修了年限は2年間ですが、

- 実務経験を有し、特に優秀な成績を修めた学生は、1年間での修了も可能。
- 社会人学生で、仕事との両立など一定の要件に該当する場合には、「長期履修学生」として、最長で4年間までの在学が可能。

→ 修了者には「公共法政策修士（専門職）」の学位を授与

Contents

院長あいさつ ……02
3つの特長 ……03
【特長1】 実践的なワークショップ ……04
2019年度 公共政策ワークショップI ……06
【特長2】 高度で多彩なカリキュラム ……08
教員紹介 ……10
【特長3】 少人数制によるキャリア形成支援 ……12
座談会 公共政策を学び始めて ……16
さまざまなフィールドで活躍する修了生 ……19
就職・進路関係 ……21
入試関係情報 ……23

パンフレット内のQRコードのリンク先を参照頂ければ、詳細な情報をご覧いただけます

特長 1

実践的な
ワークショップ

公共政策ワークショップ

東北大学公共政策大学院の「真髄」

POINT

「公共政策ワークショップ」は、東北大学公共政策大学院の「代名詞」とも言える中核的な演習科目です。政策は、理論的側面からの精緻な組み立てが必要ですが、同時に現実の社会で有効に作用するものでなければなりません。「現場重視」は、我々が最も大切にしている教育理念の1つです。

公共政策ワークショップⅠ（1年次必修）、ⅡA・ⅡB（2年次必修）

1年次の「公共政策ワークショップⅠ」（通年12単位）では、中央省庁、地方自治体などの協力を得ながら、それらの機関が直面する政策課題に対して「政策提言」をまとめていきます。例年概ね4つのプロジェクトが設定され、それぞれ5名～8名程度の学生が所属します。プロジェクト運営は「学生主体」とし、実社会と同様、各学生が役割、責任、主体性を持ちながら、チームとして行動し、成果を出すことが求められます。実務家教員・研究者教員の双方が指導に当たり、「机上の空論」にならないよう、行政機関等への現地調査を繰り返しながら検討を深め、提言内容をまとめていきます。

7月と12月の2回開催される報告会は、文書作成能力、プレゼンテーション能力に加え、真摯で白熱した質疑応答を通じて応答、説明の能力を磨く格好の機会となります。

また、2年次の「公共政策ワークショップⅡA・ⅡB」（計8単位）は、東北大学公共政策大学院での「総決算」となります。各学生が自ら研究テーマを設定し、教員の指導を受けながら個人で研究を進め、成果を「リサーチ・ペーパー」としてまとめます。現地調査の重視や政策提言を内容とする点は、「公共政策ワークショップⅠ」と同様です。

公共政策ワークショップⅠの進め方

1 基礎知識の習得

出身学部の違いなど、学生のバックグラウンドは多様。
まずは、調査研究の基礎となる専門知識を習得します。

2 現地調査の開始、課題の発見と整理 調査研究の方向性を検討

机上の検討だけでなく、実際に現地に赴き、関係者の生の声を聴くことで、政策の現状や課題をリアルに捉えます。

3 報告会Ⅰ（7月下旬）

プロジェクトの進捗状況と今後の進め方についての報告会。
学生同士、教員との質疑がブラッシュアップのヒントになります。

4 政策提言に向けた調査研究の深化 提言内容の具体化・「ツメ」の作業

引き続き、現地ヒアリングを繰り返しながら、
リアリティのある政策提言を追求していきます。

5 報告会Ⅱ（12月下旬）

公共政策ワークショップⅠ最大の「やま場」。提言先等の方からもコメントをいただき、提言のクオリティに磨きをかけます。

最終報告書の完成・提言先への説明・送付

2019年度 公共政策ワークショップⅠ

「公共政策ワークショップⅠ」は、例年、概ね４つのプロジェクトから構成され、1年次の学生はそのいずれかに所属します。研究テーマは毎年度設定されますが、これまで、東日本大震災からの復興、農業振興、地域活性化、環境・エネルギー、外交など多岐にわたるプロジェクトに挑んできました。

ここでは、本年度まさに進行中のプロジェクトについて紹介します。

過去のワークショップのプロジェクトのテーマは、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。

プロジェクト PROJECT A 人口減少社会における地方行政のあり方に関する研究

人口減少を乗りこえるための東北地方からの提言

主担当 教 授 木村 宗敬

1995年自治省（現総務省）入省。
総務省自治行政局、自治財政局、行政評価局、消防庁等での勤務を経験。
地方公共団体においては、埼玉県、青森県、京都市、秋田県において勤務。
2018年8月より現職。

本格的な人口減少局面に移行した日本には多くの困難が待ち受けています。国家レベルでは経済・財政状況の悪化、社会保障のための負担増などが懸念されています。さらに地方圏においては、人口の自然減に加えて、社会減（圏外への人口流出）も加わって、地域の存続までも危惧されている自治体が多く存在します。

こうした地方圏における自然減・社会減への対応としては、人口流出防止といった人口減少に歯止めをかける戦略と、効果的・効率的な行政体制の整備など人口減少に即した戦略の２つの戦略のもと、有効な対策を考えていく必要があります。

本ワークショップでは、社会減に悩む地域が多く所在する東北地方において、有効な対応策を提示することができれば、他の地域における問題の解決にも資するものと考えています。そのため、東北地方の自治体を対象とした実地調査を重ね、実社会で起きている課題の把握に努め、その課題をもとに、問題解決力のある政策の立案に取り組んでいます。

プロジェクト PROJECT B 仙台市総合計画の制度的・実証的研究

仙台市のグランドデザインを描く

主担当 教 授 飯島 淳子

東京大学法学部卒業、
東京大学大学院法学政治学研究科
博士課程修了。
2012年より現職。専攻は行政法。

仙台市は、日本全体の動向に比べるとほぼ10年遅れて、2020年に人口のピークを迎え、2050年に高齢者人口がピークになると予測されていますが、東北地方での「ミニ一極集中」と東京圏への人口流出No.1という厳しい現実にも直面しています。

計画の中の計画ともいえる総合計画の仕組みは、10年後の仙台市がどのようにあるべきか、目指すべき都市像を実現するためにどのような施策や事業をどのように行っていくべきかを、住民とともに議論し、決定し、実施していくものです。

プロジェクトＢでは、仙台市の次期総合計画（2021年-2030年）の策定作業と並走しながら、データに基づく現状把握と将来予測に加え、仙台市の担当課から（そして、生粋の仙台っ子や仙台市営バスをこよなく愛するメンバーからも）生の教えを請いつつ、「市民との協働」は真に実現されているのかといった真率な疑問に基づき、健康・福祉、防災環境、ICTからプロスポーツまで、学生一人一人の関心事を掛け合わせ、学生ならではの視点で、仙台市のグランドデザインを描いていきます。

プロジェクト PROJECT C 農林水産物輸出促進とインバウンド農泊による農山漁村振興策の研究

グローバル化で地方を元気に！地方活性化の鍵は世界にあり!!

主担当 教 授 仙台 光仁

1991年農林水産省入省。
主に農業、水産業、食品産業、
国際関係の業務に従事。
長崎県諫早市、在ロシア日本国大使館、
欧州連合日本政府代表部、
スポーツ庁を経て、2018年より現職。

今、我が国の地方、特に農山漁村においては、人口急減による過疎化など様々な課題が生じています。一方、地球規模では、人口増加による食料問題への対応が求められています。この過去に経験したことのない事態に対応するためには、外交と内政を両睨みした新しい施策が必要となってきます。

このため、本ワークショップでは、国内外を一体的に捉え、国内食料需要の減少に対しては世界マーケットを目指す農林水産物輸出促進政策、人口流出が続く農山漁村に対しては外国人旅行客を呼び込む農泊の推進について、これらを融合・再構築することにより、解を見出そうと研究しています。研究に当たっては、行政機関へのヒアリングと各地の農山漁村への国内フィールド調査、アジア諸国への海外現地調査を並行して行っており、複眼的視野を涵養しつつ、学生らしい柔軟な発想で、新しい次元の政策提言を出すことを目標にしています。

プロジェクト PROJECT D SDGsの達成を目指した協働プロジェクトを企画する

SDGsの実践活動に参加し、ジブンゴトとして世界を変革しよう

主担当 教 授 深見 正仁

1985年環境庁入庁。滋賀県庁、経済企画庁、
東北経済産業局等に出向。北海道大学公共
政策大学院特任教授、原子力規制庁参事官、
環境省秘書課長、大臣官房審議官を経て、
2017年8月より現職。

2015年の国連総会で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が全会一致で採択されました。これは、2030年に向けた人間、地球及び繁栄のための行動計画と言われており、世界中の国、自治体、企業、市民団体等がその実現のために動き出しています。この2030アジェンダには、17の目標（SDGs; Sustainable Development Goals）が掲げられており、持続可能な開発の三側面である経済、社会、環境を調和させるものとなっています。

本プロジェクトでは、様々に行われているSDGs達成活動に参加して活動実態を学びつつ、自分たちが実現したいと思う2030年の社会を想定し、その実現のために様々な主体と協力して実行する協働プロジェクトを企画します。どんな世界を目指して誰と何をやるか、すべて学生が主体的に判断、決定します。

在学生から 学べることは自分の姿勢次第

福岡県出身
関西学院大学法学部政治学科卒業 M.K（平成30年度入学）

研究テーマには以前から関心があったことで前提の知識は若干あったものの、扱うテーマの大きさ故、毎日知らないことに出会う日々でした。しかしながら、主担当をはじめ専門性の違う副担当の先生方やワークショップのメンバーのサポートのおかげで無事研究を終えることができました。授業・就活との両立等大変なことも多かったですが、ワークショップで学べることは自分の姿勢次第で幾らでもあります。まずは自分が大学院で何を学び、そしてそれを今後どう生かしていきたいのかを考えてみてください。そして自分なりの目標を決めてワークショップに全力で取り組んでいただければと思います。

NO IMAGE

特長 2

高度で多彩なカリキュラム

実践的なアプローチを裏打ちする確かな理論の習得

POINT

「現場重視」と両輪となるのが公共政策に関する「確かな理論の習得」です。理論的な裏付けのない単なるアイデアの寄せ集めでは「政策」とは呼べません。このため、法学、政治学、経済学など多角的なアプローチを身に付けるための履修科目を用意しています。

カリキュラム

東北大学公共政策大学院のカリキュラムは、「必須科目」、「基幹科目」、「展開科目」より構成されています。修了には、必須科目・基幹科目を含めて48単位以上の修得が必要です。

1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
必須科目（政策調査と論文作成の基礎、公共政策ワークショップI）	必須科目（公共政策ワークショップI）	必須科目（公共政策ワークショップIIA）	必須科目（公共政策ワークショップIIB）
基幹科目	基幹科目	基幹科目	基幹科目
展開科目	展開科目	展開科目	展開科目

必須科目

「必須科目」は、「公共政策ワークショップI（12単位）」及び「公共政策ワークショップIIA（2単位）」「公共政策ワークショップIIB（6単位）」並びに「政策調査と論文作成の基礎（2単位）」です。

このうち「政策調査と論文作成の基礎」では、公共政策大学院の学修と研究に必要な調査及び論文作成のための基礎的な技法を習得します。論理的議論の組み立て方や論文のフォーマット、効果的なプレゼンテーションの実践、政策情報の収集法、統計データの作成と解釈、法的枠組みを把握するための方法、調査の成果を報告書や論文としてアウトプットするための方法などを学びます。

すべての学生が円滑に履修を進められるよう、法学部出身の学生のみならず、理科系を含めた他学部出身の学生にも十分に配慮した教育を行っています。

基幹科目

学生は1年次より、「必須科目」とは別に、「基幹科目」の諸科目を履修することが求められます。「基幹科目」は法律学、政治学、経済学などの分野からバランスよく構成され、このうち18単位が選択必修となります。

「基幹科目」に配当されている授業は可能な限り学際的であることが目指され、複数の法領域・政策領域に関わる問題を多角的な学問領域から分析するように配慮されています。科目によっては、研究者教員・実務家教員との連携、学外の実務家による講演なども交えて行われます。

理論と実務の双方の観点から公共政策の基礎的・体系的な知識を学習する授業、公共性についての理解を深め、現象の背後に存在する理念的・価値的な問題についての洞察力を涵養することを目的とした公共哲学に関する授業など、多彩な授業が開講されています。

展開科目

「必須科目」及び「基幹科目」の履修と並行して、学生は必要に応じて、より高度な社会科学の専門知識を習得し、または理科系の諸学を含めたより広範な領域にわたる政策学について学びます。なお、「関連科目」として会計大学院の授業を履修することもできます。

東北大学公共政策大学院科目一覧（平成31年度実績）

1 必須科目

■公共政策ワークショップⅠ
・プロジェクトA ・プロジェクトB
・プロジェクトC ・プロジェクトD
■公共政策ワークショップⅡ A・B
■政策調査と論文作成の基礎

2 基幹科目

公共政策基礎理論／公共政策特論／行政の法と政策
租税制度論／政策税制論／国際社会と各国法秩序
グローバル・ガバナンス論／経済学理論／財政学／社会福祉政策
防災法／政策評価論／政策分析の手法／政策体系論／公共哲学
経済と社会

3 展開科目

法と経済学／環境法／実務労働法／社会保障法／経済法／ジェンダーと法演習／国際関係論演習／現代政治分析演習
比較政治学演習／ヨーロッパ政治史演習／西洋政治思想史演習／日本政治外交史演習／防災政策論演習
アジア政治経済論演習／行政学演習／震災と復興／環境法概論／ヨーロッパ法政策特論／都市環境政策論演習
開発協力論演習／中国政治演習／環境・コミュニケーション演習／経済産業政策特論／比較公共政策／政策過程の歴史分析

※上記科目は、平成31年度に開講している科目です。今後変更されることがあります。

在学生から

正答のない課題に挑む

宮城県仙台市出身
東北大学教育学部　渡邊 裕一郎（平成30年度入学）

本大学院では主体的に考え、行動することが求められます。日本社会が直面する正答のない課題に対して、現状分析を行うにとどまらず、各種方面へのヒアリングやプロである先生方を交えた議論を通じて、最適解を導き出す。貴重で刺激的な日々を体験することができます。もちろん、苦労する場面は多々ありますが、得られる知見や経験は、今後どのようなキャリアを築くにしても、大いに活きてくると確信しています。本大学院での学びをぜひ、多くの人に体験してもらいたいです。

教員紹介

国際法

理事・副学長・教授 **植木 俊哉**

1983年東京大学法学部卒業。東北大学法学部助教授を経て、1999年より東北大学法学部教授。2004年から2006年まで東北大学大学院法学研究科長・法学部長、2006年から東北大学理事・大学院法学研究科教授、現在に至る。専門分野は、国際法・国際組織法。

充実した教育内容の大学院

東北大学の公共政策大学院は、2004年に国立の公共政策大学院として最も早く開設され、少人数の学生に対する密度の濃い充実した教育内容を特長としています。皆さんは、「公共政策ワークショップ」等を通じて、単なる知識や技術にとどまらない政策立案過程でのさまざまな課題に自ら挑戦し、問題の解決に向けて取り組む専門的能力を身につけていくことができます。「公」の課題に挑戦する意欲に富んだ皆さんの入学を心からお待ちしています。

比較政治学、政治経済学、国際ボランティア論

教　授　**岡部 恭宜**

東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士（学術）。東京大学社会科学研究所、JICA研究所を経て2015年4月より現職。専攻は比較政治学、国際ボランティア論。

多様なレンズから何が見えますか

公共政策を考察するための視点は様々です。実務はもちろんのこと、政治学、法学、経済学、社会学といった複数の学問から焦点を当てることも必要ですし、グローバル化の時代、国際的な視点も欠かせません。研究対象についても、中央や地方の政府の政策のほか、企業、NPO、市民団体といった非国家アクターの戦略や行動に目を向けることが求められます。本学はこうした多様なレンズを用意しています。是非覗いてみて下さい。

政治思想史

教　授　**鹿子生 浩輝**

1971年福岡県生まれ。西南学院大学法学部卒、九州大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程修了。博士（法学）。2017年4月より現職。専門分野は政治思想史。

実践的判断のための哲学的探求

私は主に「公共哲学」という科目を担当しています。この科目は、公共政策を提言する際の哲学的基盤に関心を寄せる分野です。実践的な政策は、そもそもどのような政治的価値に基づいているのか、その価値判断それ自体が適切なのか。こうした根源的な問題の自覚がなければ、具体的な提言も無益となるかもしれません。公共哲学は、こうした理論的・哲学的側面に正面からアプローチする学問であり、これこそ大学院で探求されるべき知的営為の一つだと思います。

行政法

教　授　**北島 周作**

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。成蹊大学法学部准教授、東北大学法学研究科准教授等を経て、2015年12月より現職。専攻は行政法。

地道な基礎トレーニングの必要性

公共政策大学院に入ってこられる方は、公務員となって政策の企画立案をし、社会問題を解決したいという方が多いと思います。しかし、例えば、打つ練習、投げる練習だけでは野球はうまくならず、筋力トレーニングやランニングを必要とするように、政策を企画立案し、それを実施するためには、基礎となる理論や道具となる法律に関する理解を深めることが不可欠です。公共政策大学院でこうした基礎トレーニングを行ってくれることを期待しています。

都市法政策

教　授　**島田 明夫**

1980年東京大学経済学部卒、2007年東京大学博士（工学）、1980年旧建設省入省、住宅宅地政策、環境政策、経済政策、産業政策、在外勤務（在英国大使館）、防災対策などに従事し、関東地方整備局用地部長、四国地方整備局次長を勤めた。その後、東京大学大学院法学政治学研究科客員教授、政策研究大学院大学教授を経て、2010年8月より本学教授、、2014年4月よりパーマネント教員。

被災地を回って「考える足」になろう！

災害対策の課題と解決策は、災害現場にあるのです。被災地の大学の使命として、被災地の声に耳を傾けて、頭ではなく足で考えることによって、実態に即した解決策を見つけ出さねばなりません。あわせて、人口減少社会に対応したまちづくりの在り方も考える必要があります。「考える足」となって、幅広い見識と現実的な政策立案のできる人材に育っていただきたいと願っております。

国際関係論

教　授　**戸澤 英典**

1966年岩手県生まれ。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。エッセン総合大学留学、EU代表部専門調査員、大阪大学法学部講師・助教授を経て2005年4月に東北大学助教授、2010年7月より現職。2014年から2016年まで公共政策大学院長。

手づくりで進化・発展する大学院

日本では初めての試みであった「公共政策ワークショップ」を中心とする本大学院は、教員・学生一体となって手づくりで練り上げ、今なお自らを進化・発展させていると自負しています。少子高齢化や格差社会の進行による諸問題に直面し、さらに日本をとりまく国際状況はますます険しさを増していますが、この難しい時期だからこそ、望ましい将来像を構想し具体的な政策・施策に練り上げ実現していく、そんな人材を数多く輩出すべく力を尽くしたいと思っています。

行政法

教　授　**中原 茂樹**

1968年大阪府生まれ。1992年東京大学法学部卒業、1997年東京大学大学院法学政治学研究科博士課程単位取得退学。大阪市立大学法学部助教授（准教授）を経て、2009年10月より現職。専攻は行政法。

「公」とは何かを考え、実現する

公共政策大学院での勉強の究極の目標は、「公」とは何かを具体的なレヴェルで考え、実現するためのスキルを身につけることだと思います。東北大学公共政策大学院は、そのための充実した教授陣と環境を用意して、皆さんをお待ちしています。

行政学

教　授　**西岡　晋**

1972年東京都生まれ。1998年早稲田大学社会科学部卒業。早稲田大学大学院政治学研究科博士後期課程単位取得退学。金沢大学法学類准教授、同教授を経て、2015年10月より現職。専攻は政治学・行政学。

公共政策を考え抜く

公共政策とは、理想と現実のあいだのギャップであるところの「問題」を解決して、理想の社会に少しでも近づけるためのさまざまな取組のことを指します。社会には解決が求められている問題が溢れています。にもかかわらず、なぜ問題は放置されたままなのでしょうか。問題を解決するためにはどうすれば良いのでしょうか。そもそも、「理想の社会」とはどのような社会なのでしょうか。東北大学公共政策大学院で一緒に、そして徹底的に考えてみませんか。

防災政策、事業継続計画
（国土交通省出身）
（本務）災害科学国際研究所）

教 授（兼務）**丸谷 浩明**

1983年東京大学経済学部卒。建設省入省後、内閣府防災担当企画官、京都大学経済研究所教授、（財）建設経済研究所研究理事（東京工業大学特任教授を兼務）、内閣府防災担当参事官、国土交通省国土交通政策研究所政策研究官を経て、2013年10月より現職。経済学博士。

東日本大震災の被災地で防災を学ぶ

東北大学は、東日本大震災の被災地の唯一の「総合大学」です。また、東北はいまだ復興の途上で、問題が続いています。2015年3月に仙台で開催された「国連防災世界会議」で「仙台防災枠組」が採択され、世界から注目されている中、この地でぜひ防災を学びましょう。身近な防災の知恵から、若者の地域の防災での役目、そして防災から見た政府・自治体の政策枠組みまで、視野を広げてください。

外交政策

教 授 **若林 啓史**

1986年東京大学法学部卒業、外務省入省。1986-2016年外務本省、山梨県警察本部、内閣府国際平和協力本部事務局、在外公館（イラク、シリア、ヨルダン、イラン、オマーン等）に勤務。2016年より現職。

グローバル化に活路を見いだす

国境を超えた人々の活動はますます盛んになっています。グローバル化は、国際交流や経済発展の面で良い影響を及ぼします。一方、日本の優秀な人材は国際的な厳しい競争にさらされ、国内に留まる人たちも、外国人との共存や競争を考えなければならなくなります。このように、国際環境がグローバル化に向けて加速する中、誰もが適応することを求められます。そのためには、語学などのスキルに限らず、多文化を理解する柔軟な思考力の獲得が不可欠です。

労働法

准教授 **桑村 裕美子**

鳥取県出身。
東京大学法学部卒業。同大学院法学政治学研究科助手を経て、2007年より現職。

考え抜く力を

公共政策の領域では、新たな発想を示すだけでなく、それを説得的に論じることが求められます。1つのテーマについて、いろいろな意見があることを学び、迷いながらも最後まで考え抜くという機会は、あまりないと思います。本大学院の様々な授業を受講しながら、1年単位の長期にわたり困難な問題に向き合い、仲間とともに一つの結論を導くという経験をしてみませんか。卒業の頃には、きっと大きな達成感があることでしょう。

国際法

准教授 **西本 健太郎**

東京大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。博士（法学）。2012年4月より現職。専門分野は国際法・海洋法。

変化する時代の中で本質を見極めたい

「これまで通用してきた方法が、これからも通用するとは限らない。」少子高齢化による社会の変化や、経済のグローバル化による産業構造の変化といった様々な変化の中で、そうした局面は今後増えていくことでしょう。変化する時代の中では、過去のやり方にとらわれず、表面的な新しさにも惑わされず、課題の本質を的確に見極めることが一層重要になります。東北大学公共政策大学院では一つの課題と徹底的に向き合うための場を用意して、皆さんをお待ちしています。

租税法

准教授 **藤岡 祐治**

東京大学大学院法学政治学研究科法曹養成専攻修了、ハーバード・ロー・スクール（LL.M.）修了。東京大学大学院法学政治学研究科助教、財務省財務総合政策研究所研究官を経て、2018年4月より現職。専攻は租税法。

政策立案に必要な能力を養う

政策の立案は、関連するデータを集め、分析し、それに基づいて行う必要があります。また、その政策がどのような影響を与えるかも、ミクロ及びマクロの観点から考えなければいけません。東北大学公共政策大学院では、政策立案に必要な能力を授業やワークショップを通じて養います。国、公共の利益を高めるためにはどのような政策を立案すべきかという難しい課題について、熱意を持って取り組んでくれる方を全力でサポートします。

日本政治外交史

准教授 **伏見 岳人**

東京大学法学部卒業。東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了。2011年4月より現職。
専攻は日本政治外交史。

日本の未来像を議論する

公共政策ワークショップは、地域社会や国際社会の直面する現在進行形の問題を取り扱う実践的な教育プログラムです。全国各地から集う仲間たちと共に、自治体や現場でのヒアリングを数多くこなし、多種多様な資料を読み込んで、チームとしての提言にまとめていく作業は、公共政策の担い手を志す人々には一生の財産と呼ぶべき貴重な経験になることでしょう。この仙台の地で、皆さんと一緒に日本の未来像を真剣に議論できることを楽しみにしています。

公共政策大学院長

教 授 **阿南 友亮**（中国近代政治史、現代中国政治）
…… 2ページ

教 授 **木村 宗敬**（地方行財政（総務省出身））
…… 6ページ

教 授 **深見 正仁**（環境政策（環境省出身））
…… 7ページ

教 授 **飯島 淳子**（行政法）
…… 6ページ

教 授 **仙台 光仁**（農林水産政策（農林水産省出身））
…… 7ページ

研究者教員　実務家教員

特長 3

少人数制による
キャリア形成支援

教員との近い距離感、実務家教員も含めたキャリア形成支援

POINT

公共政策ワークショップⅠ・Ⅱの指導教員が少人数の学生を受け持ち、学修面での指導だけでなく、社会に送り出すという視点からもきめ細かくサポートします。

明日の日本の担い手を送り出すために

東北大学公共政策大学院では、1学年30名の学生に対し、公共政策ワークショップ、基幹科目などの担当教員だけでも10名以上の教員がインテンシヴに担当し、きめ細かな教育・指導を実施しています。また、学生一人一人にアドバイザー教員がつき、履修相談・進路相談を定期的に行っています。さらに、国家公務員総合職を志望する学生については、希望者を対象に官庁訪問を想定した面接指導を実施するなど、中央省庁出身の実務家教員の強みを活かした取組も行っています。

我々は、学修面だけでなく、修了後の進路に関しても、学生のよき相談相手、よき理解者、かつ、よき指導者でありたいと考え、教室の内外を問わず、日々学生と接しています。

在学生から

成長できる環境で学ぶ

福島県出身
東北大学法学部卒業　山田 凌介（平成30年度入学）

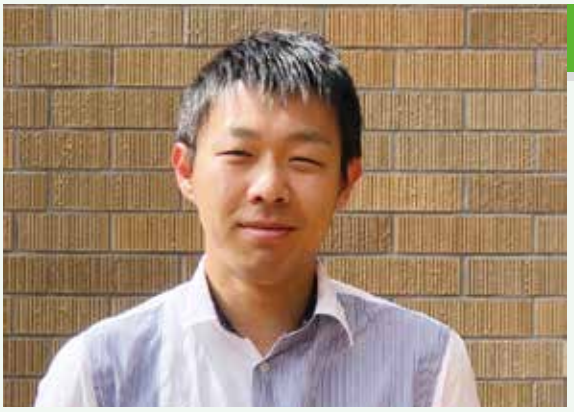
学部時代に座学中心の講義で知識を蓄えてきた自分にとって、この大学院での主体性を求められるワークショップや双方向での講義は非常に刺激的でした。講義は第一線で活躍されている実務家と研究者の教授からの多様かつ幅広い視座で行われ、環境にも恵まれています。少子化や過疎化など課題先進地とされるこの東北地方でこそ学ぶことができる多くの事があなたを待っています。この環境を活用し成長したいと考える皆様、この大学院で学んでみませんか。

キャンパスライフ
Campus life

働きながら学び直しを希望される社会人の方に

東北大学公共政策大学院には、地方公共団体や民間企業等に勤務しながら、政策立案や企画能力の向上、知識のブラッシュアップ等のために学んでいる社会人学生が多く在籍しています。

仕事と学業の両立を実現し、日々、成長を続けている社会人学生の皆さんを紹介します。



地方自治体職員

柴田　亮太　宮城県出身

東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は、東日本大震災直後の平成23年４月に宮城県に採用され、以後６年間は災害復旧・復興をメインに行う部署で業務に携わってきました。そして７年目になり震災の影響も落ち着いてきた中で、自分自身が「大きな変化」に対応できる職員へ成長をしているのか考えるようになり、それが大学院進学の動機となっています。

人口減少という戦後経験したことのない時代に突入する地方は、持続可能な社会を創るためあらゆる知恵を絞らなければなりません。東北大学公共政策大学院は、公共政策ワークショップを通して、東北地方をメインのフィールドに様々な社会課題に対してアプローチをしています。行政の経験と大学の知的資源を用いて、地域の存在を見つめ直し、新時代を切り開ける力を身につけるために本大学院を選びました。

仕事との両立の状況

私は修士課程１年にあたる年度で、「自己啓発休業」を取得しており、１年間は大学院での学習に集中して取り組んでおりました。２年生の今年度は、職場へと復帰しフルタイムで業務を行いながら、リサーチペーパーの作成を行っております。

現在の学習内容

現在は公共政策ワークショップⅡ（リサーチペーパーの作成）を中心に取り組んでおり、農村部におけるまちづくりの研究をしています。また業務時間外で受講できる土曜日に開講された授業を履修しています。

今後の抱負

現在の研究テーマが、小規模な自治体を対象にしたものであるので、市町村のためになる研究成果を出すことができれば良いと思っています。また修了してからは、大学院のワークショップで取り組んだことを実践に活かし、行政職員として宮城県に還元していきたいと考えております。

１週間のスケジュール

2018年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限				【講義】地域社会と公共政策論Ⅰ		
2時限					【講義】公共政策基礎理論	
3時限		【公共政策ワークショップⅠ】人口減少社会に対応したまちづくり法制に関する研究				【講義】公共政策特論Ⅱ
4時限	【講義】政策調査と論文作成の基礎			【講義】政策体系論 政策実務A		
5時限						
6時限						

2019年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限	勤務	勤務	勤務	勤務	勤務	
2時限						
3時限						【講義】公共政策特論Ⅰ
4時限						
5時限						
6時限						

※夜間や土日の空き時間を利用してリサーチペーパーの作成を行っている

団体職員

寺門　瞳　　茨城県出身

（勤務中）

東北大公共政策大学院を選んだ理由

私は現在、市の観光に携わる外郭団体に勤務しています。インバウンドの増加に伴い、誘客促進の方法や観光客の受け入れ環境の整備の仕方も、日々変化しています。観光立国日本の一地域の現場を担う者として、多角的な視点から学ぶ必要性を感じ、働きながら学べる環境である東北大公共政策大学院を志望しました。

現在の学習内容

1年次は必修科目（公共政策WS Ⅰ、政策調査と論文作成の基礎）のみの履修でしたので、今年度は基幹科目を中心に履修をしています。WS Ⅱでリサーチペーパーの執筆を念頭に置きつつ、新たな知識の習得がメインの1年間になります。

仕事との両立の状況

長期履修制度を活用し、4年間での修了を目指しています。

勤務は基本的には月～金曜日ですが、祭りやイベント等が週末や休日に行われることが多く、その振替休日や年次有給休暇を利用して通学しています。

今後の抱負

大学院の制度のおかげでもありますが、もちろん職場の理解があって学ぶことができています。学んだことや気づき等は、論文の形としてだけでなく、日々の業務に少しずつ取り入れることで、職場へ還元していきたいです。そして、人口減少社会の現実に向き合い、多角的な視点から、改めて今後の観光のあり方を考えていきたいと思います。

1週間のスケジュール

2018年前期

	月	火	水	木	金	土
1時限	勤 務		勤 務	勤 務	勤 務	勤務（イベント対応等）※不定期
2時限						
3時限		【公共政策ワークショップⅠ】人口減少社会に対応したまちづくり法制に関する研究				
4時限	【講義】政策調査と論文作成の基礎					
5時限						
6時限		勤 務				

※有給休暇や、土日祝日勤務の振り替え休日等を利用して、月曜・火曜の授業を履修した。

2019年前期

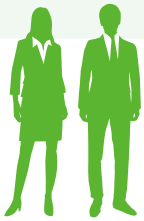
	月	火	水	木	金	土
1時限	【講義】政策過程の歴史分析	【講義】租税制度論	勤 務	勤 務	勤 務	勤務（イベント対応等）※不定期
2時限	勤 務	勤 務	【講義】政策体系論 政策実務A 都市法政策			
3時限			勤 務			
4時限						
5時限						
6時限						

（長期履修制度を活用中）

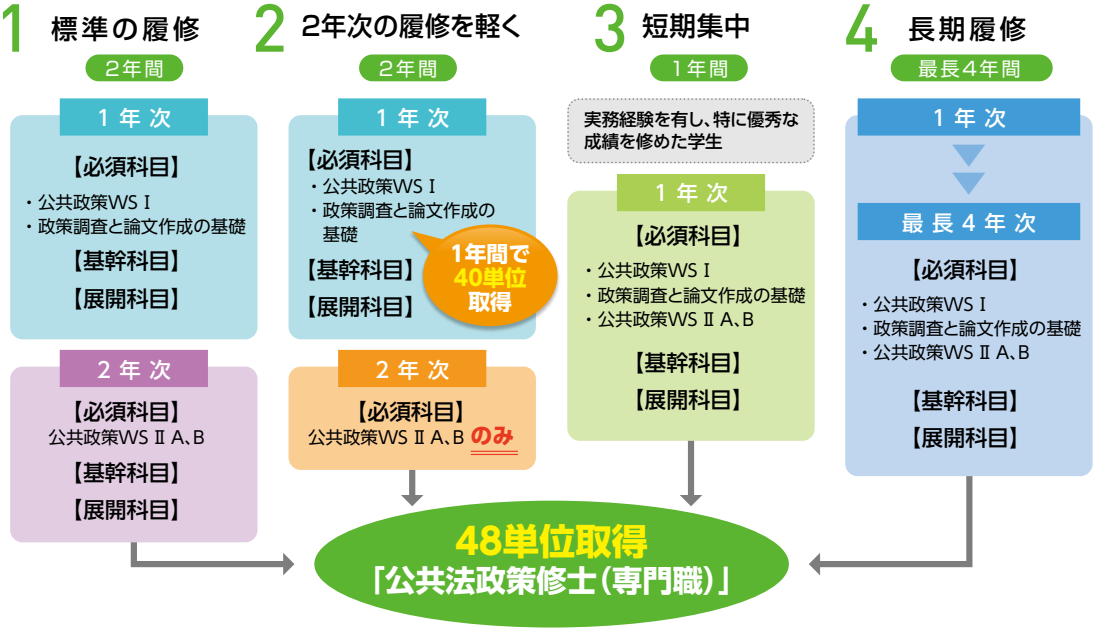
他に、下記のような勤務先で働きながら又は休職しながら、当大学院で学んでいる学生の皆さんがいます。

- 福島県南相馬市役所
- 陸上自衛隊
- 仙台市議会（議員）
- 学校法人自治医科大学
- 経済産業省
- 国立大学法人東北大学
- 福島県郡山市役所　等

社会人学生の履修モデル



東北大学公共政策大学院では、学業と仕事を両立できるよう、社会人学生向けに複数の履修コースを用意しています。2年間での修了のほか、最短で1年、最長で4年での修了が可能です。



1 標準の履修　2年間

2年間で48単位を取得し修了します。

2 2年次の履修を軽く　2年間

公共政策WS Ⅱ以外の40単位を1年次に集中的に取得します。2年次は、仕事の状況に応じて通学・メール等で担当教員の指導を受け、公共政策WS Ⅱの8単位を取得し修了します。

3 短期集中　1年間

修了に必要な48単位を1年間で取得し修了します。公共政策に関する3年以上の実務経験がある学生を対象にしたもので、優秀な成績を修めた場合に修了が認められます。

4 長期履修　最長4年間

履修年限を最長4年間まで設定できます。授業料の支払総額は、標準履修（2年間）の場合と同額に設定されています。

! 地方公務員の方へ　～「自己啓発等休業制度」のご確認を ～

地方公務員法には、条例に基づき職員が大学等課程の履修のために休業することができる「自己啓発等休業制度」の規定があります。休業期間中の給与は不支給ですが、学業に専念できます。条例が制定されている場合、一般的には、以下のような名称・内容になっています。

- ☑「職員の自己啓発等休業に関する条例」といった名称の条例
- ☑大学院も履修先として規定
- ☑休業期間は原則２年間

是非、ご所属先の条例の有無、内容についてご確認ください。

座談会　公共政策を学び始めて

司会（横尾）：まず初めに、東北大学公共政策大学院への志望理由を教えてください。

政策提言についてもっと理解を深めたいと思い、いろいろなところにヒアリングに行ける本大学院を志望（和田山）

和田山：学部時代に山形県庁にインターンシップに行き、その経験から政策提言についてもっと理解を深めたいと思い、ワークショップでいろいろなところにヒアリングに行ける本大学院を志望しました。
三宅：進路として国家公務員を志望しており、その準備として様々な人に会って話を伺いたく、学部時代とは違う大学の大学院に進学したいと思いました。まだこちらに来て日は浅いですが、来て良かったと実感しています。

理論と実務の両方を学ぶことができるこの大学院を志望（井上）

井上：私は大学4年生になって、ようやくそれまで大学で学んできたことが点と点で繋がった感じがして、もう少し勉強を続けたいと思うようになりました。そこで、ワークショップでの活動を通して、理論と実務の両方を学ぶことができるこの大学院を志望しました。
松田：僕は２つありまして、昨年進路選択が思うようにいかず、どうしようか考えていた時に、東北大学の内部進学制度を知りました。経済的なサポートが充実していたことが理由のひとつです。もう一つの理由は、面接の際に視野の狭さを指摘されました。この大学院には、社会人経験のある学生の方もいますし、霞が関で活躍されてきた実務家の先生方のお話もうかがえるので、多様な視点から問題を捉える訓練が出来ると思い志望しました。

司会（横尾）：今年度から内部進学制度とTA（ティーチングアシスタント）制度が発足しました。TA制度はどういった制度なのでしょうか。

学業と両立することのできる制度でとても助かる（高倉）

高倉：TAとして働くことで、学費とほぼ同額の手当が支給される制度です。それほど業務負担は大きくなく、学業と両立することのできる制度でとても助かっています。オープンキャンパスなどでも話をしますので、ここにいる誰かに会えるかもしれませんよ(笑)。

司会（北山）：では次に、それぞれのワークショップの内容と、ここまでやってきたことを教えてください。
和田山：ワークショップAは「人口減少社会における地方行政のあり方～秋田における今後の施策展開を考える～」という題名でやっております。秋田県は人口増加率が全国最下位で、かつ高齢化率は全国１位と全国で最も厳しい状況にあります。課題解決のトップランナーである秋田県での対応策は他の地域でも有効な政策となり得るものであると考えます。メンバー9人のうち2人が社会人で、今月秋田県庁にヒアリングに行きました。それを参考にブレインストーミングをして課題を発見し、政策提言に繋げていくプロセスをやっているところです。今は社会人の方が中心になってワークショップを進めている状況です。

学部出身者がいろいろ習得し、逆に引っ張っていく存在になることもワークショップの醍醐味（横尾）

司会（横尾）：今は社会人がチームを引っ張っているとのことですが、だんだん学部出身者がいろいろ習得して、逆に引っ張っていく存在になることもあるので、それもまたワークショップの醍醐味ですね。
井上：ワークショップBは「仙台市総合計画の制度的・実証的研究」をテーマに活動しています。仙台市は現在、この先10年を見据えた活動計画である総合計画の策定中なのですが、それと"並走"して学生の観点からの独自の意見を出せないか研究しています。現在は、議論を深めるうえで基礎知識を習得したり、総合計画の審議会や現場の方のお話を聞いたりするなどして、ようやく自分たちの進むべき方向性が分かり始めてきたところです。
山本：ワークショップCは国際関係にアプローチするワークショップです。今年は海外向けの農林水産物の輸出と、インバウンドを誘致する農泊をどう促進していくかの調査研究です。一見異なるような政策の相関関係を見出すことが、まず一番の課題でした。この二つの政策を通して、どう地域を活性化していくかを抽象的・具体的に議論を重ねているところです。国の関係団体や、実際に農業に関わっている方など様々な方にヒアリングを行い、それぞれの政策が抱えている課題を具体的に

■ 司会者　■ 参加者

横尾 和希
山形県出身
京都大学出身

北山 澪
宮城県出身
東北学院大学出身

和田山 朋佳
宮城県出身
山形大学出身

井上 太樹
福島県出身
新潟大学出身

三宅 亮
東京都出身
早稲田大学出身

山本 麻莉絵
北海道出身
国際基督教大学出身

高倉 颯太
東京都出身
早稲田大学出身

松田 洋平
宮崎県出身
東北大学出身

詰めている段階です。
三宅：海外にもヒアリングに行く予定なのですよね。
高倉：秋から、日本の農林水産物輸出額１位の香港と、新興国として輸出が伸びているベトナムに、二つのグループに分かれて訪問する準備を進めています。
松田：ワークショップDは「SDGs（持続可能な開発目標）の実現を目指した協働プロジェクトを企画する」というテーマです。貧困問題や女性の社会進出など、未来を良くする17のゴールの実現を考えて行きます。私たちの指導教員はいつも「教室にいるな。外に出ろ。」とおっしゃっていて、これまで地方自治体、NPO法人、民間企業などにヒアリングに行っています。ヒアリングで得た知見で、この17の分野からやりたいことを絞り、一緒にプロジェクトを進めて行くことを考えています。これまでのワークショップは政策を作ることがゴールだったと思いますが、それにプラスして一緒にプロジェクトを進め、働いて行こうというのが、Dの特徴だと思います。

ヒアリングのない余裕のある週に質問票を作るなど、先を見越した計画を作る力も身に付いた（北山）

司会（北山）：私も昨年ワークショップⅠを経験して、最初は先生がヒアリング先のセッティングやアポイントを取ってくださったのですが、途中からは自分たちで先方とメールでやり取りしてヒアリングをしに行きました。ヒアリングのない余裕のある週に質問票を作るなど、先を見越した計画を作る力も身に付いたと思います。
司会（横尾）：ワークショップを上手く進めるためには、忙しいなかでいかに話し合いの時間を作るか、意見をまとめていくかが大事になってきますね。7月の中間報告会と、12月の最終報告会も、ペースメーカーとなってくれるだろうと思います。

司会（横尾）：ワークショップ以外の授業で気になるもの、面白いものはありますか？

実際に役立つスキルが身に付けられるのも本大学院の魅力のひとつだと思う（松田）

松田：「政策調査と論文作成の基礎」という必修授業があります。私は学部時代に卒論がなく、論文の書き方を学んでいないのですが、この授業ではそれを指導していただき、学術的研究の基礎を築いていただきました。また全員の前でプレゼンテーションをするノウハウも学んでいます。プレゼンテーションのスキルは、社会に出たら間違いなく重要なものだと思うので、そういった実際に役立つスキルが身に付けられるのも本大学院の魅力のひとつだと思います。
三宅：論文の赤入れもやって貰えたり、パソコンでグラフなどの作り方を覚えたり、異なるワークショップに属するメンバーと仲良くなれる機会でもありますね。

一緒に受講している社会人の方から実務上の経験談を聞くことができ、とても勉強になる（和田山）

和田山：「行政と法の政策」という講義では、行政苦情救済推進会議の過去の議事概要を読んで討論しています。学部生時代は行政苦情について学ぶ機会はなかなかなかったですし、一緒に受講している社会人の方から実務上の経験談を聞くことができ、とても勉強になりました。
高倉：「公共政策特論」では、様々な行政機関で活躍されている方々から、行政や政策の最先端のお話が聞けます。普段自分があまりアンテナを広げていない分野の話も自動的に聞けるのがいいですね。
三宅：実務家の先生のお話を聞く機会があって、しかも土曜日開講の授業なので、社会人でも柔軟に時間割を組めるのもメリットかなと思います。
井上：「政策過程の歴史分析」という授業で、過去の本大学院のワークショップの報告書を読んで分析する機会がありました。その報告書の執筆に携わった修士2年生の先輩方もその授業を受けていて、その報告書に至るまでの裏側を聞くことが出来ました。これからワークショップを進めるうえで、先人のアウトプットを検証することも大事だなと思っています。

司会（北山）：キャンパスライフや仙台での暮らしについてお聞きしますが、初めて仙台で暮らすという人はいますか？
山本：私は北海道の函館で育ち、大学時代は東京で過ごしましたが、仙台はとても地元の雰囲気と似ています。気温や人の穏やかさ、またどこにでもアクセスしやすい環境、寮もここのすぐ近くなので大学生活には理想的ですね。近所の美味しいお店も現在開拓中です。片平キャンパスの裏のほうに、有名なとんかつ屋さんがあると聞いているので。
井上：片平キャンパスの裏門近くに仙台のB級グルメ「マーボー焼きそば」の有名な店があるんですが、美味しかったですよ。

大学寮に住んでいるのでいざという時に相談出来る人もおり、安心して暮らせる（三宅）

三宅：自分は出身も大学も東京だったので、初めての一人暮らしでどうなることかと思いましたが、大学寮に住んでいるのでいざという時に相談出来る人もおり、安心して暮らしています。今年は夜桜と雪が一緒に見られて、仙台ならではの風情ある景色を見ることができました。
山本：ワークショップ室や自習室が24時間開いているのも、とても勉強しやすい環境ですね。
井上：ワークショップ室は各部屋ごとに個性がありますよね。綺麗だったり、逆だったり（笑）。
司会（北山）：昨年は報告会が近づいてくると長い机が書類だらけになりました(笑)。
司会（横尾）：10月頃に、仙台の伝統行事である川原での芋煮会を開きます。中間報告会や最終報告会のあとには飲み会もあるので、ワークショップだけでない全体の親睦を深める機会もあります。
和田山：私が大学で通った山形の芋煮は、醤油味で牛肉が入った芋煮でしたが、住んでいる仙台の芋煮は味噌味で豚肉なので、ちょっと「豚汁（とんじる）」っぽいような(笑)。どちらも美味しいと思いますが、本大学院の芋煮は仙台風なのでしょうか。
司会（横尾）：歴史的経緯があって、仙台風と山形風の両方です。
司会（北山）：コモンルームに代々のレシピが置いてあります(笑)。

司会（横尾）：では、大学院での今後の抱負や、終了後の将来のヴィジョンを教えてください。

専門性を持った政策分野に携われる人間になりたいと思う（山本）

山本：私は大学時代は教養学部だったので、専門性を身に付けたくて志望しました。国際関係であったり、内政であったり、私はいろいろな分野に興味があるので、専門性を持った政策分野に携われる人間になりたいと思っています。ここでは、自分がやりたいことを声に出して言うと、友人や先生方などが応援してくれる環境が整っているように感じます。

実践的に政策の企画・立案に求められるスキルを身に付け、それを活かして活躍できるようになりたい（高倉）

高倉：自分は国家公務員になりたくてこの大学院に入ったので、ワークショップなどで実践的に政策の企画・立案に求められるスキルを身に付け、それを活かして活躍できる行政官になりたいと思っています。官庁訪問の対策においても、実務家の先生方のバックアップは非常に心強いです。模擬面接をしていただいたり、面接カードの添削もしていただいています。政策の具体的なお話を伺うことも出来ますしね。
司会（北山）：私は民間企業の就活をしていますが、同じく就活をしている人から情報を貰ったり、話を聞いて貰ったりしています。ここはそういった情報共有がとても強いですね。

司会（北山）：それでは最後に、入学を考えている人へのメッセージをお願いします。
松田：東北大学公共政策大学院の魅力は、ハード面でもソフト面でも充実していることです。ハード面では自習室が24時間使え、そこで勉強が出来ますし、ワークショップ室も非常に過ごしやすい環境です。ソフト面では実務家の先生が多く、国の省庁で人事のお仕事をされていた方もいますので、そういった方から面接指導をしていただける環境はなかなかありません。そういった充実した空間でもう１年、あるいはもう２年、夢を追ってみるのもいいのではないかと思います。お待ちしています。

地方の先進的な課題を体系的に学習できると同時に国際関係の勉強も出来る（山本）

山本：東北大学というと地方の先進的な課題に取り組む大学というイメージを持っている方も多いかもしれません。私は国際問題などにも興味があり、視野を広げるために東北大学に来ましたが、ここでは様々な機関に勤められていた実務家の先生もおり、地方の先進的な課題を体系的に学習できると同時に国際関係の勉強も出来ます。いろいろなことに興味・関心があり、政策分野をもっとプラティカルかつアカデミックに学びたい方には、お薦めな場所ではないでしょうか。
高倉：特に文系の出身者は、学部を出た段階で就職する人が多いのかなと思います。そういった中で自分の夢や目標を叶えたいと思って大学院に進学することに、ちょっとだけ不安のある人もいるはずです。自分もそうでした。でも、この大学院の環境はとても恵まれていますし、同じような目標を持っている友人もたくさんいます。すごく自分を成長させることの出来る環境だと思いますので、勇気を出してと言ったら変かもしれませんが、この大学院に入ってみるのも良い選択だと思っています。

自分とは違った考え方に出会えますし、視野を広げる機会が豊富にある（井上）

井上：ここには本当に様々なバックグラウンドを持った方々がいます。しかもみんないろいろな夢を抱いています。授業だけではなく、普段の生活の中で話していても、自分とは違った考え方に出会えますし、視野を広げる機会が豊富にあります。それは本当に、この東北大学公共政策大学院の大きな魅力だと思います。このパンフレットを見て、興味が湧いてきた方は、ぜひ説明会やオープンキャンパスにお越しください。話を聞きに来るだけでも、違った世界が見えて来るかもしれません。一緒に学べるようお待ちしています。
三宅：大学院では、研究ばかりの日々を過ごすのではないかと懸念している方はたくさんいると思います。少なくとも自分はそうでした。もちろんちょっとは忙しくなりますが、部活やボランティア活動と両立している人もいます。恐がらずにぜひ飛び込んで来てください。
和田山：ここは議論好きな方が多いので、私ももう少し議論力を磨いていきたいと思っています。私は地方公務員を目指しているのですが、この大学院出身で地方公務員になられた方が多くいらっしゃいます。選択肢を広げることが出来るのも本大学院の魅力だと思いますので、ぜひいらしてください。

司会（北山）：私は経済学部出身で、入学前に法律をあまり深く学んだことがありませんでした。ですから大学院に入った後、最初の頃は、法律に関することがたくさん出て来て、難しかったです。でも周囲の法学部出身の方々に質問したら、全然嫌な顔をせずに教えてくれました。だからパンフレットを見ている方には、法学部以外の人でも大丈夫です、とお伝えしたいです。また、先ほど自習室が24時間開いているという話がありましたが、日曜や祝日まで利用できるのは凄いことではないかと思います。おかげで私は毎日のように来ています。

企画・立案の出来る能力を身に付けて、世のため人のために働く人材になることが、この大学院ではできる（横尾）

司会（横尾）：ワークショップの先生から「天下国家を語りなさい。」と伝えられました。政策を議論する大学院ということで、そういう話が出来る環境と仲間、そして実務家の先生方がいらっしゃる2年間。そこで企画・立案の出来る能力を身に付けて、世のため人のために働く人材になることが、この大学院ではできるのではないかと思います。このパンフレットを見ている皆さんも、ぜひ東北大学公共政策大学院に来ていただき、我々と一緒に天下国家を語りましょう。お待ちしています。

平成31年度入学の修士1年の入学者の内訳は次のとおりとなっています。

■学部卒業後入学30名　■地方公共団体職員１名
■民間企業職員２名　■法人職員１名　合計34名

さまざまなフィールドで活躍する修了生

この「橋」を渡ったことで見えた景色

国家公務員

石田 大貴
（平成28年度修了）

環境省大臣官房環境保健部
環境保健企画管理課
千葉県出身、明治大学文学部卒業

（右が筆者）

これは私の持論ですが、本大学院は学生と社会人、理論と実践、そして多様なバックグラウンドを持つ人達との間に架かる橋のようなものだと思います。

一歩橋に踏み出すと、やがてその橋の上に立つことで見える景色に気がつきます。例えば、ある政策を考える際、多様なアクターが複雑に絡むことでその合意形成は困難といえます。本学の公共政策ワークショップでは、これを体感しつつ、解決に資するために実務家や研究者を交えたチームで日夜議論を行います。そして中央省庁、地方自治体、民間企業、時には海外の機関等にもヒアリングを行い、政策提言の方向性や妥当性を探っていきます。

現在、公害対策を行う部署に所属する私は、実際に色々な方のお話を伺う機会があり、よくヒアリングの経験を思い出します。さらに、現在の直属の課長が本学でお世話になった教授であること等も含め、この橋を渡ったことが、様々な側面で良い経験になったと感じます。

皆さんも東北大学公共政策大学院という橋に歩みを進めてみませんか。

かけがえのない「人」と出会える場

地方公務員

石垣 友香子
（平成29年度修了）

仙台市役所青葉区
保健福祉センター家庭健康課
仙台市出身、早稲田大学政治経済学部卒業

昨年4月に仙台市役所に入庁し、現在は青葉区保健福祉センターにて保育所の利用調整等、保育に関わる仕事をしています。一人でも多くの待機児童を減らすべく、日々市民の目線に立ち、一人ひとり真摯に向き合いながら業務にあたっている先輩方に囲まれながら、はやく一人前になりたいと奮闘中です。

本学の特徴ともいえるワークショップでは、チームワーク力が鍛えられたと感じています。グループとして一つの政策を作り上げていくためには、グループ内の人間関係を円滑に進めるだけでなく、情報や疑問点を他のメンバーに正確かつ分かりやすく伝えることが求められます。これらの力は実際に仕事をするうえで不可欠な能力であると日々感じています。

修了後間もないですが、既に多くの機会で先生方や先輩方、ワークショップメンバー、同級生に支えられています。本学は知識を学べることはもちろんですが、素晴らしい先生方や仲間、ヒアリングで出会った方など、多くの人とのつながりを得られる場です。皆さまの入学を心からお待ちしています。

さまざまなフィールドで活躍する修了生

真の実学を学べる日本唯一の学び舎

国家公務員

小野 遥太
（平成30年度修了）

外務省大臣官房
東京都出身、東北大学経済学部卒業

皆さんにとって実学とは何でしょうか。より地に足のついた学びにこだわりたい、そんな思いで門を叩いた私の大学院生活は、入学早々、外務省と元大使へのヒアリング調査から始まりました。

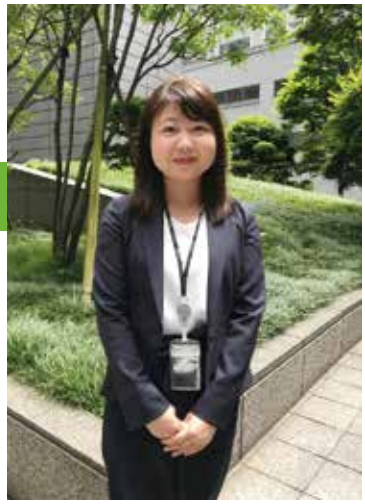
その後もワークショップの仲間たちと共に外郭団体や企業、外国政府まで30か所近くを訪ね、自らの足で学び取ってゆくことで、ようやく文字にならない声から現場の姿を知ることができました。

こうした現場にこだわる本大学院での学びは、先生方との距離が近いからこそ実現しています。実務と研究を熟知した先生方と、社会課題の解決に向けて密に議論を重ねていき、よりよい社会をつくる「真の実学」を学んでいきました。

入省後は、ワークショップで扱った部署に早速配属され、公共で培ったありとあらゆる「現場力」が生かされています。「中東専門の外交官として、東北生活で共に歩んできた復興の道を紛争地で実現する」、公共で抱いた私の夢は、まだ始まったばかりです。

皆さんも美しき杜の都で、これからの我が国を考えてみませんか。

答えのない課題に とことん向き合う



民間企業

平林 穂奈美
（平成28年度修了）

野村證券株式会社法務部法務一課
京都府出身、関西学院大学国際学部卒業

大学卒業後、大学の同期のほとんどが社会人になる中、大学院に進学することはとても勇気のいる決断でした。しかし、東北大学の公共政策大学院では、2年先に社会人経験を積んでいる同期に劣らない経験を得ることができ、とても意義のある2年間であったと確信しています。

特に、1年次の「公共政策ワークショップ」では、研究者教員と実務家教員の指導の下、様々な分野の学問を学んできた仲間と共に、1年間、1つの政策課題に向き合います。

1つの政策課題について、文献調査、議論を何度も行い、仮説を立て、国内に限らず、海外にも足を運び、現場の政策担当者と意見交換を行う。そして、理論と実践の間に立つ私たちだからこそ提示できる解決策を考え抜きました。

社会人になり、答えのない課題に向き合う毎日ですが、本学で得た「考え抜く力」は、現在の仕事に生きていると痛感しています。

就職・進路関係

東北大学公共政策大学院で学ぶことによって、どのような将来が拓かれるでしょうか。

政策プロフェッショナルを目指す人

現　在

国家・地方・国際公務員を志望している。

既に公務員試験に合格している人も

東北大学公共政策大学院（原則2年で修了）

- ●ワークショップで実務体験型学習
- ●公共政策の最先端理論の体系的学習
- ●政策プロフェッショナルに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーションなどの技法の修得
- ●実務家教員による公務員志望者に対する指導

在学中に公務員試験合格

将　来

◆ 国家・地方・国際公務員

進路の幅を広げたい人

現　在

学部で学んでいる内容だけでは自分の希望する将来の道が見えて来ないと感じている。

東北大学公共政策大学院（原則2年で修了）

- ●ワークショップの実務訓練を通して自分の進むべき道を固める
- ●自分の進路に必要な基礎から最先端までの理論の学習
- ●政策プロフェッショナルや企業マネージメントに必要な調査・レポート・ディスカッション・プレゼンテーション等の技法の修得
- ●指導教員によるきめ細かな進路指導

在学中に公務員試験、民間企業の就職試験などに合格

将　来

◆ 国家・地方・国際公務員
◆ NPO・シンクタンクの政策スタッフ
◆ ジャーナリスト　◆ 民間企業のマネージメント
◆ 博士課程に進学

社会人として一段階上を目指す人

現　在

中央・地方官庁などの職員、地方議会議員等として働きながら“政策プロフェッショナル”としての知識・技法を身につけたいと考えている。

東北大学公共政策大学院（1年もしくは2年で修了、長期履修（上限4年）で修了）

- ●ワークショップを通じてこれまでの実務体験を見つめ直す
- ●公共政策の最先端理論の集中的・体系的学習
- ●政策プロフェッショナルに必要な最先端技法の修得
- ●指導教員による個人指導の下でリサーチ・ペーパー作成

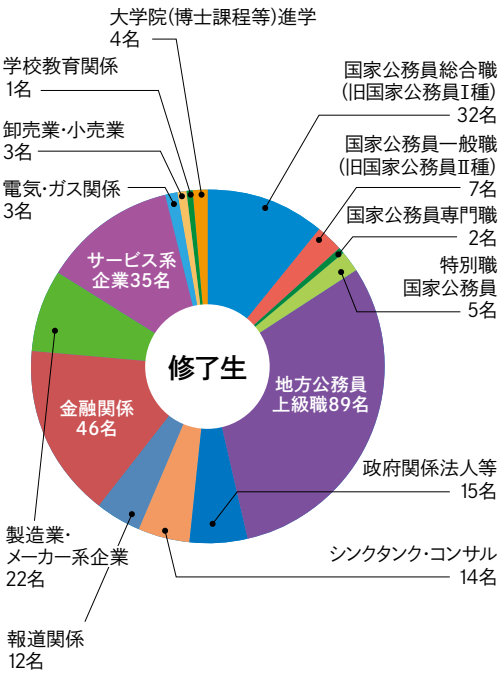
将　来

◆ 元の職場に復帰してキャリア・アップ
◆ 別の職へ飛躍

修了生の就職先・進路としては、中央省庁・地方自治体等の幹部候補生、国際公務員のほか、ジャーナリストやシンクタンクのスタッフ等を念頭に置いています。

ワークショップ等を通じて獲得されるであろう、課題発見に始まり情報収集、解決策の作成検討に至る政策の企画立案に関する様々な能力は、社会人として実務に携わっていく上でまさに有用なものであり、多くの官公庁・企業等において高く評価されるものと考えています。

■ 修了生の主な進路先



- ●国家公務員総合職（旧国家公務員Ⅰ種）・・・人事院、内閣府、公正取引委員会、総務省、財務省、国税庁、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省、防衛省、会計検査院、経済産業省
- ●国家公務員一般職（旧国家公務員Ⅱ種）・・金融庁、公安調査庁、財務省、国土交通省、入国管理局、関東管区行政評価局
- ●国家公務員専門職・・・・・・・・・・・・・・外務省、関東財務局
- ●特別職国家公務員・・・・・・・・・・・・・・参議院事務局、陸上自衛隊幹部候補生、航空自衛隊幹部候補生
- ●地方公務員上級職・・・・・・・・・・・・・・東京都庁、北海道庁、岩手県庁、宮城県庁、秋田県庁、山形県庁、福島県庁、茨城県庁、栃木県庁、神奈川県庁、愛知県庁、兵庫県庁、沖縄県庁、札幌市役所、仙台市役所、横浜市役所、名古屋市役所、大阪市役所、北九州市役所等
- ●政府関係法人等・・・・・・・・・・・・・・日本銀行、JETRO、国際協力機構、農林中央金庫等
- ●シンクタンク・コンサル・・・・・・・・・・・・日本総研、野村総研、富士通総研等
- ●報道関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・読売新聞社、朝日新聞社、日本経済新聞社、共同通信社、河北新報社、日本放送協会等
- ●金融関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・日本政策金融公庫、日本政策投資銀行、みずほ銀行、三菱UFJ銀行、三井住友銀行、日本生命、明治安田生命、全国共済農業協同組合連合会、野村證券等
- ●製造業・メーカー系企業・・・・・・・・・・・三菱重工業、JFEスチール、三菱ケミカル、三井化学、東芝、日立製作所、三井金属鉱業、日本新薬、日本製鉄、三菱マテリアル等
- ●サービス系企業関係・・・・・・・・・・・・・日本IBM、JR西日本、NTTデータ、ベネッセコーポレーション、ヤマト運輸、JTB等
- ●電気・ガス関係・・・・・・・・・・・・・・・東北電力、北陸電力、静岡ガス
- ●卸売業・小売業・・・・・・・・・・・・・・・豊通食料等
- ●学校教育関係・・・・・・・・・・・・・・・学校法人昌平黌
- ●大学院（博士課程等）進学・・・・・・・・東北大学大学院（法学研究科、医学系研究科、情報科学研究科）

※なお、上記の中には、在学中に就職した者や、社会人として入学し、修了後に復職した者もいます。

勉強、研究をサポートする充実した施設

1 ワークショップ室

各ワークショップごとに、調査研究を進めるためのワークショップ室が与えられています。ワークショップ室は、24時間利用可能です。

所属メンバーは、毎週火曜日午後のワークショップの授業の際に集まって議論を行うだけでなく、いつでも集まり、議論し、資料を作成し、文献を研究することができます。

2 自習室

エクステンション教育棟内に自習室があり、学生は1人に一つの勉学用の机が与えられています。自習室は24時間利用可能です。

3 学生寄宿舎

留学生との共同生活を行うユニバーシティ・ハウス（写真）をはじめとした各種学生寄宿舎を、低額で利用することができます。

奨学金その他の各種支援制度

1 入学料・授業料免除

経済的理由により入学料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業が優秀であると認められる方等については、選考の上、入学料の全額又は半額の免除が許可される制度があります。

また、経済的理由により授業料を納付することが困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる方等については、選考の上、授業料の全額、半額又は３分の１の額の免除が許可される制度があります。

これらのほか、入学料や授業料の徴収猶予の制度があります。

2 奨学金

当大学院の学生は、日本学生支援機構奨学金として、第1種奨学金（無利子）、第2種奨学金（有利子）を申請することができます。そのほか、各種奨学金（地方公共・民間奨学団体等）があります。

3 TA制度

一般入試において実施される小論文および口述試験の双方で特に優秀な評価を受けた入学者やそれに準ずる者には、1学年間、TA（ティーチングアシスタント）として、東北大学公共政策大学院における教育活動補助等に従事することで、一定の給与を支給される制度があります（年額80万円の予定）。

入試関係情報

1 アドミッション・ポリシー

東北大学公共政策大学院が受け入れる学生像とは、「公共政策ワークショップ」をはじめとするカリキュラムによって、他の学生と切磋琢磨しながら自己の能力を一層涵養することのできる人物であり、具体的には以下の資質を持つ人物です。

◉学部で学んだ専門知識を基盤としつつ、公務及び公共政策の立案・制度設計について多角的な視点から学習する意欲と基礎的な能力を有すること。
◉討論・交渉・文章作成・プレゼンテーションなどコミュニケーション能力を豊かに持ち、集団作業に貢献できる適性を有すること。
◉公共性への情熱を持ち、公務に対し献身的な資質を有すること。

したがって入学試験では、特定の行政課題に関する基本的な理解とそれに基づき考察する能力を有していることを考査するとともに、「公共政策ワークショップ」において集団作業に積極的に参加する人物であることを面接で審査します。これによって、特定の学部の卒業生に偏ることなく、様々な学部の卒業生や社会人経験を持つ者から多様な学生の受け入れを進めます。

本学の教育プログラムに参加するには日本語能力試験N1で150点相当の成績と日本の国内行政に関する大卒レベルの知識が求められます。

2 入学試験の概要

入学試験は、第1期募集、第2期募集、政策法務教育コース募集、内部進学者特別選抜の４回に分けて行われます。

※政策法務教育コースは、公共政策全般に関する実務に３年以上携わった方（例えば、地方議会議員や行政機関の職務経験者、社団法人・財団法人やNPO等において公共性の高い業務を経験された方）を対象としたものです。
※内部進学者特別選抜は、国家公務員をはじめとした公共性の高い職業を志す東北大学の優秀な在学生を対象としたものです。

第1期募集及び第2期募集の入学試験は、提出書類、小論文及び口述試験の総合判定により行います。
政策法務教育コースの入学試験は、提出書類（スタディ・プラン等）及び口述試験の総合判定により行います。
内部進学者特別選抜は、提出書類（出願書身上書等）及び口述試験の総合判定により行います。

◉小論文

小論文の問題は、現在の日本が直面している政策課題について受験生の理解度と見解を問うものとなります。受験生は、内政、経済、国際関係の3分野から出される問題のうち一つを選択して小論文を作成します。過去の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されておりますので、事前チェックをお薦めします。

◉口述試験

口述試験は、受験生の公共政策全般に対する姿勢、コミュニケーション能力、モチベーション等を総合的に判定するために行われます。

過去の小論文の問題は、東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。

3 本年度の入学試験の日程・場所・出願方法

詳細は、各募集ごとの「令和２（2020）年度東北大学公共政策大学院学生募集要項」をご覧ください。

	内部進学者特別選抜	第１期募集	政策法務教育コース	第2期募集
募集定員	合計30名			
募集要項･出願書類の配布	7月上旬	7月上旬	9月上旬	11月下旬
出願受付	令和元年8月1日(木)～8月7日(水)	令和元年9月5日(木)～9月11日(水)	令和元年10月21日(月)～10月25日(金)	令和元年12月24日(火)～令和2年1月6日(月)
入学試験	令和元年8月31日（土）	令和元年9月28日(土)、9月29日(日)	令和元年11月16日（土）	令和2年1月18日（土）
合格者発表	令和元年9月6日（金）	令和元年10月4日（金）	令和元年11月19日（火）	令和2年1月24日（金）

●募集要項及び出願書類の用紙は、東北大学法学部・法学研究科専門職大学院係の窓口で配布します。また、郵便で取り寄せることもできます。
●入学試験は東北大学片平キャンパスで実施します。
●入試情報は、随時、東北大学公共政策大学院のウェブサイトに掲載されますので、ご参照ください。

入試情報は東北大学公共政策大学院のウェブサイトを参照して下さい。
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/admission/

令和元年度　入試説明会及びオープンキャンパス

お申し込み・参加費
不 要

入試説明会

仙台会場

7/19㊎・8/3㊏・9/4㊌・9/5㊍

川内キャンパス　片平キャンパス　片平キャンパス　川内キャンパス

東京会場

AP東京八重洲通り

7/19㊎・7/20㊏・8/23㊎
8/24㊏・9/2㊊・9/3㊋

京都会場

8/24㊏

TKPガーデンシティ京都

オープンキャンパス

7/2㊋
15:00～17:00

会場
片平キャンパス・エクステンション教育研究棟

ワークショップⅠ中間報告見学会

7/26㊎
8:50～18:20

会場
片平キャンパス・エクステンション教育研究棟

政策法務教育コース「社会人向け進学相談会」

10/11㊎・10/12㊏

会場　片平キャンパス

※上記の会場において、本大学院を知っていただくため、教員等による説明会を開催します。

開催場所・時間等の詳細は、東北大学公共政策大学院ウェブサイトでご確認ください。
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/

アクセスマップ

- □ 東京駅から仙台駅まで約90分
- □ JR仙台駅より徒歩15分
- □ 仙台市営地下鉄東西線青葉通一番町駅より徒歩7分

片平キャンパス

TOHOKU UNIVERSITY

東北大学公共政策大学院

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
東北大学法学部・法学研究科専門職大学院係
TEL. 022-217-4945
E-mail　contact@publicpolicy.law.tohoku.ac.jp
http://www.publicpolicy.law.tohoku.ac.jp/

Waterless Printing. Naturally.
このパンフレットは環境に配慮した「水なし印刷」により印刷しております。

VEGETABLE OIL INK
環境にやさしい植物油インキ「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。